

ユニー・ファミリーマートホールディングス 株式会社



2019年2月期 第1四半期 決算説明会資料

取締役 専務執行役員 CFO

中出 邦弘

2018年7月12日

—注意事項—

本資料の記述には、当社の将来の業績等に関する見通しが含まれていますが、これらは現在入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づいています。実際の業績等は、経済の動向、当社を取り巻く事業環境等の様々な要因により、これらの見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おください。

2018年度第1四半期決算概要 (IFRS)

(単位：億円、億円未満切り捨て)	2017年度 第1四半期	2018年度 第1四半期		主な増減要因
	実績	実績	前年同期差	
営業収益 (HD及び連結調整は省略)	3,103	3,165	62	
CVS事業	1,431	1,333	▲ 98	直営店閉鎖等を中心とした店舗数の減少
GMS事業	1,675	1,846	170	(増加) カネ美食品の連結子会社化 (減少) ユニー不採算店舗の閉鎖
事業利益 (HD及び連結調整は省略)	188	203	14	
CVS事業	119	136	16	ブランド転換店の利益増、直営店閉鎖等に伴う経費削減
GMS事業	69	71	2	
親会社所有者帰属利益	84	137	52	
CVS事業	34	67	32	事業利益の増加要因のほか、その他費用の減少
GMS事業	47	39	▲ 7	非支配株主持分利益40%控除分 (▲26億円) 含む
HD及び連結調整	2	29	27	ユニー香港の売却影響 (27億円) 含む

※2017年度第1四半期実績は、経営統合時ののれん処理の確定を受け、遡及修正しております。

事業利益、親会社所有者帰属利益ともに増益

- ・CVS事業：ブランド転換店の日商向上、直営店を中心とした不採算店舗の閉鎖に伴う経費削減等により増益
- ・GMS事業：非支配株主持分利益40%控除の影響除けば、親会社所有者帰属利益は実質増益
- ・HD及び連結調整：ユニー香港の売却益の計上等

(単位：億円、億円未満切り捨て)	2018年度第1四半期			
	CVS事業計	前年同期差	FM (単体)	前年同期差
営業収益	1,333	▲ 98	1,108	▲ 93
事業利益 (日本基準における営業利益相当)	136	16	114	16
親会社所有者帰属利益/四半期利益	67	32	52	8

		2018年度第1四半期	
		実績	前年同期差
FM (単体) 主要 営業数値	全店日商 (千円)	512	▲ 6
	既存前年比 (ブランド転換店含む)	101.2%	—
	(参考) 既存前年比 99.0% (ブランド転換店及びカード・チケット除く)		
	差益率 (カード・チケット除く)	31.0%	0.0%
	新規出店数	30	▲ 40
	ビルド&スクラップ数	65	29
	ブランド転換数	424	▲ 330
単純閉店数	253	132	

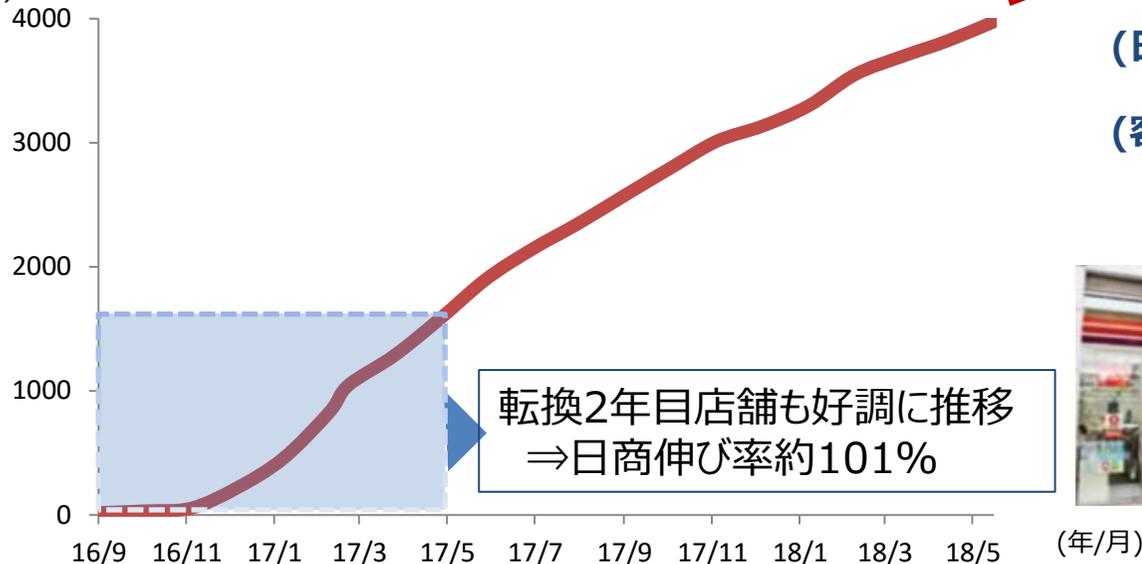
【FM(単体)の営業概要】

- ・ブランド転換店含む既存比 101.2%：転換店舗の日商は好調を継続
- ・新規出店数 30店：出店を厳選し、質を向上。ビルド&スクラップも推進
- ・単純閉店数 253店：不採算店舗の閉鎖を実行

●店舗基盤の強化

●ブランド転換の進捗

(店舗)



▶▶▶ 転換後の実績

(日商) **506**千円 (転換前対比) **110%**

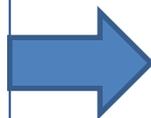
(客数) **821**人 (転換前対比) **111%**

11月までにブランド統合完了予定



●高質店の出店

・新規出店数 **30**店
・ビルド & スクラップ数 **65**店



(新店日商) **573**千円 (前年同期差) + **49**千円

●商品力の強化

●中食構造改革の継続

- ・惣菜、調理麺、サンドイッチなど定番商品を中心に「具材・調理方法・見た目」にこだわり刷新
- ・「お母さん食堂」、「焼きとり」が中食売上を牽引



●店舗オペレーションの強化

●業務効率化の取り組み

- ・検品レスは半数程度の店舗が実施済。約2時間の削減
- ・F Fの調理設備の大型化。7Lフライヤーの導入
- ・第2四半期以降、新型引出し棚、セルフレジ等を順次導入



7Lフライヤー



新型引出し棚

●ドンキホーテHDとの共同実験の開始（6月に3店舗開店）

- ・日用品を中心に品揃えアイテム数の拡大
-約5,000アイテム（改装前対比+約2,000アイテム）
- ・ドン・キホーテ流のレジ前や店頭スペースでの商品陳列、大型POPの設置



GMS事業 第1四半期決算概要（IFRS）及び営業概要

(単位：億円、億円未満切り捨て)	2018年度第1四半期			
	GMS事業計	前年同期差	ユニー（単体）	前年同期差
営業収益	1,846	170	1,439	▲ 78
事業利益（日本基準における営業利益相当）	71	2	60	▲ 2
親会社所有者帰属利益/四半期利益	※ 39	▲ 7	55	6

※ GSM事業は非支配株主持分利益40%控除（▲26億円）の影響含む

		2018年度第1四半期	
		実績	前年同期差
ユニー （単体） 主要 営業数値	既存前年比	100.2%	—
	衣料品	102.8%	—
	住関連品	100.2%	—
	食品	99.7%	—
	荒利率	23.6%	▲0.1%
	期末店舗数	192	▲ 17

【ユニー（単体）の営業概要】

- ・既存前年比 100.2%：UCSカード・ユニコカード会員向けの販促企画が奏功。衣料品、住関連品が好調に推移
- ・荒利率 23.6%：在庫の適正化を推進。住関連品の一部商品において価格訴求も強化

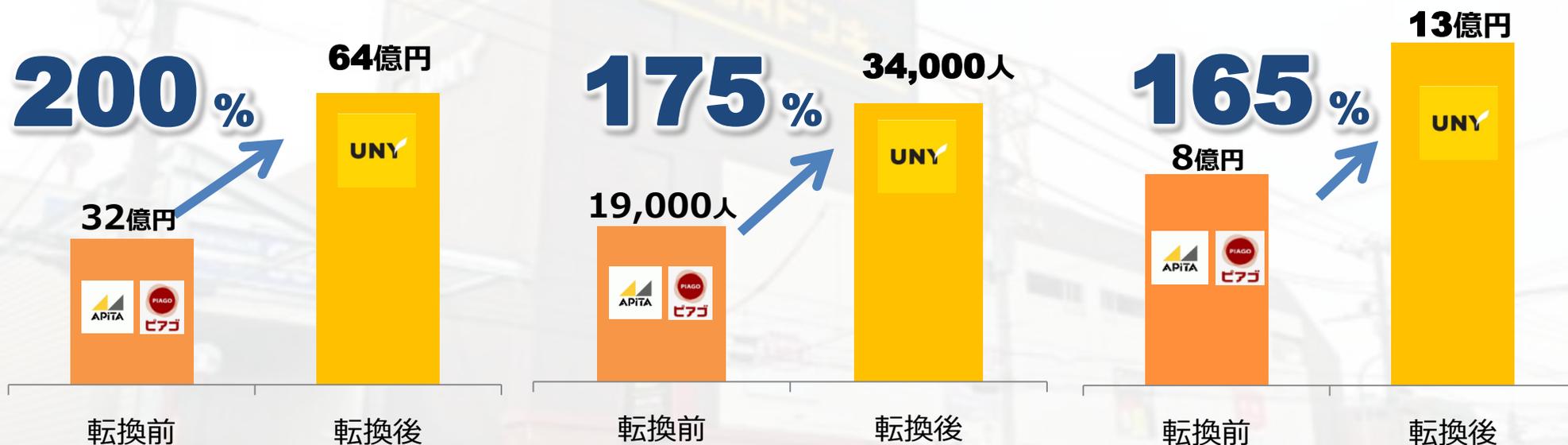
●ドンキホーテHDとの取り組み進捗

<新業態6店計 2018年3~5月実績（概算）>

売上高前年比

客数（1日当たり）前年比

荒利高前年比



転換後の売上、客数、荒利はいずれも、転換前対比で引き続き高いパフォーマンスで推移

- ・売上構成比の変化・・・（転換前）食品 70：非食品 30
（転換後）食品 60：非食品 40→特に住居関連品の売上増
- ・客層の変化・・・今まで取り込めなかった学生を中心とした若い客層と30～40代のニューファミリー層が大きく伸長

●業績予想（4月11日公表数値据え置き）

	2017年度	2018年度	
	通期	通期	
(単位：億円、億円未満切り捨て)	実績	計画	前期差
営業収益	12,753	12,702	▲ 51
CVS事業（HD及び連結調整含む）	5,565	5,158	▲ 407
GMS事業	7,187	7,544	356
事業利益（日本基準における営業利益相当）	662	773	110
CVS事業（HD及び連結調整含む）	427	502	74
GMS事業	235	271	35
親会社所有者帰属利益	336	400	63
CVS事業（HD及び連結調整含む）	159	304	144
GMS事業	177	※ 96	▲ 81

※ GMS事業は非支配株主持分利益40%控除分（▲62億円）の影響含む

【参考】2018年度計画（IFRS）_CVS事業

(単位：億円、億円未満切り捨て)	2018年度 通期計画			
	CVS事業計	前期差	FM (単体)	前期差
営業収益	5,205	▲ 403	4,243	▲ 438
事業利益 (日本基準における営業利益相当)	510	80	435	93
親会社所有者帰属利益/当期利益	300	312	273	268

		2018年度 通期計画	
		FM	前期差
FM (単体) 主要 営業数値	全店日商 (千円)	525	5
	既存前年比 (ブランド転換店含む)	102.4%	—
	(参考) 既存前年比 101.1% (ブランド転換店及びカード・チケット除く)		
	差益率 (カード・チケット除く)	31.1%	0.2%
	新規出店数	260	▲ 1
	ビルド&スクラップ数	340	25
	ブランド転換数	1,045	▲ 1,675
	単純閉店数	741	▲ 378

ブランド転換の推移	2016年度実績	2017年度実績	2018年度計画	合計
ブランド転換数	829	2,720	1,045	4,594
ビルド&スクラップ数	64	203	140	407
CKS閉店数	244	664	396	1,304

(単位：億円、億円未満切り捨て)	2018年度 通期計画					
	GMS 事業計	前期差	ユニ- (単体)	前期差	UCS	前期差
営業収益	7,544	356	5,813	▲ 244	199	0
事業利益（日本基準における営業利益相当）	271	35	210	14	40	1
親会社所有者帰属利益/当期利益	※ 96	▲ 81	122	▲ 21	27	1

※ GMS事業は非支配株主持分利益40%控除分（▲62億円）の影響含む

		2018年度 通期計画	
		計画	前期差
ユニ- (単体) 主要 営業数値	既存前年比	99.8%	—
	(上期/下期)	100.4% / 99.3%	—
	荒利率	23.8%	0.4%
	(上期/下期)	23.7% / 23.8%	0.4% / 0.3%
	出店数	1	0
	閉店数	11	▲ 9
	期末店舗数	181	▲ 10